



## ビル・ウィルソン師来日決定！

皆様のお祈りに支えられて、ビル・ウィルソン師は順調に回復しています。

そしてついに7月25日(木)～30日(火)に来日し、セミナーを開催することが決まりました。今後も引き続き健康が守られ、最高の状態で来日することができるようにお祈りください。

なお、開催地域やその他の詳細はこれから調整することになります。正式なご案内は来月になるかもしれませんのでご了承ください。夏休み中ですし、一人でも多くの方にご参加いただきたいと願っています。

ご自分の教会での開催や会場を準備しての開催をご希望の場合は、すぐにお知らせください。

ビル師の旅費や会場費、スポンサーの募集のことを考慮しますと、最低でも300名以上、できれば500名以上の規模でのセミナー開催を願っていますので、皆様のお祈りとご協力をよろしくお願いいたします。

### キャンプ支援募集中！

締切  
5月25日(土)

4月号でお知らせしましたように、フィリピンとアメリカのキャンプ支援を募集しています。

お申し込みの締切は、5月25日(土)となっておりますが、保護者の了承が必要ですし、特にフィリピンでは両親の了承を得なければならないのですが、別々に住んでいることが多く、スタッフが許可をもらいに行くのにも時間がかかります。できるだけ早くお申し込みください。

QRコードでのお申込はこちらから⇒



サイトからは、<https://metroworldchild.jp/summer-camp/>

フィリピン 14,500円(1日)7歳以上・アメリカ 45,000円(5泊6日)9歳～17歳

### 常時スポンサー募集中！

お申し込みはこちらから⇒  
<https://metroworldchild.jp/apply-for-sponsor/>



### 今月の引き落とし日！

5月27日(月)です。口座をご確認ください！

### 今月号の目次

P2～3…フィリピンツアーのご感想

P4～5…ビル師からのメッセージ  
—ガザ地区での奇跡

P6…日本事務所からの重要なお知らせ

# フィリピン視察ツアーのご感想

今年の春開催しましたメトロ・フィリピンの現地視察ツアーにご参加くださった方々のご感想をお届けします。

## 堀井 卓 様

参加できてよかった!

日本に戻り、妻と何度も今回のツアーについて話しています。サンデースクールに参加している子どもたちの輝いている目、メトロのスタッフが命がけで子どもたちをサポートしている姿、超多忙な中、私たちのガイドをしてくださった万代先生を始め、日本のメトロオフィスでの献身的な働きのことなど…

## サンデースクール

ビル先生の証し、ビデオや沢山の報告を通して、メトロのサンデースクールの様子はなんとなく知っていました。しかし、実際にその場に参加して一番に感動したのは、子どもたちが喜んでサンデースクールに参加していることでした。

サンデースクールが始まる前に、スタッフとスラムや墓地に住んでいる子どもたちを呼びに行く時でした。沢山の子どもたちがスタッフに駆け寄り、ハグしに来ます。そればかりでなく、大人たちもスタッフの顔を見るとみな、安心した様子で世間話が始まります。スタッフのハンナさんに聞くと、サンデースクールの日だけでなく、家庭訪問して関係をしっかりと築いていることが分かりました。そこは、私たち日本人が想像もできないような貧困地区での生活でしたが、スタッフは彼らと共に喜び悲しんでいる、だから、みなメトロを信頼し大好きなのだ。

サンデースクールは様々な工夫がされていて、小さな子どもたちが1時間以上集中している姿には驚きでした。楽しい賛美や祈り、クイズやゲーム、そして、聖書の話も紙芝居やスキットなどでしっかり構成され、それを見る子どもたちの真剣な眼差しに感動しました。それは、スタッフ一人一人が何よりもイエス様の愛を子どもたちに届けたいという大きな使命感に満ちているからだと感じました。

## ポーリーンちゃん訪問

二日目の朝、スタッフのハンナさんとポーリーンちゃんの家を訪問させていただきました。そこはスモーキーマウンテン



ンの横に建てられたアパートでした。狭く暗く汚いアパートに信じられないほど沢山の人が暮らしています。4階まで上るとそこには可愛い笑顔のポーリーンちゃんが私たちを迎えてくれました。あまりに嬉しくて、それまで覚えていたタガログ語の挨拶を忘れてしまいました…その後、ポーリーンちゃんの住んでいるところを案内してもらい、そこでの暮らしも垣間見ることができました。ファーストフードに食事に行ったり、スーパーでショッピングしたりと、あっという間の夢のような時間でした。私たちの小さなサポートですが、喜んで受け取ってもらえているのだと本当に感謝の時でした。それと同時に、メトロのスタッフ、日本オフィスでの働きがなければ決して会うことができなかったポーリーンちゃんに出会うことができたことに私たち夫婦は心から感謝の言葉です。

何よりも嬉しかったことは、次の日、ポーリーンちゃんがメトロのジュニアスタッフとして、サンデースクールに参加している姿を見ることができたことです。ポーリーンちゃんが妻の姿を見ると駆け寄ってきて笑顔でハグをしてくれたこと、妻への神様からの最高のプレゼントでした。

## メトロの働き

初日、フィリピン人スタッフから、ビル先生が一人の人に助けられたのがメトロの働きスタートだと改めて聞くことができました。今回、スラム街や墓地、そして、スモーキーマウンテンで暮らしている沢山の人の人たちと出会い、そこでの生活を見て途方に暮れるような感覚になりました。しかし、



メトロの働きの原動力は、小さな子どもたちのために命がけで働いているスタッフ、その働きを支えている日本のメトロオフィス、そして、何よりも主がこの働きを喜んでくださっていることだと思います。

万代先生が移動中のジブニーの中で話してくださいました。「メトロの働きは、慈善事業や人道支援が目的でなく、福音を伝えることです。」

「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ 16:15)

「最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」(マタイ 25:40)

## 堀井 ユリ 様

### 背中を押されてツアーに参加

今年も春、フィリピンツアーが開催されるという記事をニュースレターで読みました。参加すれば、6年間サポートしているポーリーンちゃん(12歳)に会える！ということで、主人と家族の誰かに行ってもらおうと思いました。

私は参加できないよね、と同居している実母に話をすると、夫婦二人で行っておいで、私が何とかするから！と背中を押してくれて、行く決心ができました。

フィリピンへは30年前に2ヶ月半の宣教旅行へ行っただけなのですが、すっかり便利で快適な日本の暮らしに慣れてしまっているので、期待と同時に不安もありました。でも、イースター礼拝の時に語られた聖書の言葉、「わたしがともにいる」、イエス様が先頭に立って導いてくれる、というメッセージにとっても励まされました。

日本のお菓子が喜ばれるとのことで、スーパーで大量のカプリコとグミ、キャンディを購入、スーツケースいっぱい詰めました。サポートしているポーリーンちゃんには、調べるとフィリピンの方へのお土産には、日本のタオル、文具が喜ばれる、とあったので、これだったら喜ぶかな？と思うものを選びました。準備も整い、いよいよ出発。羽田空港で万代先生、ツアーで一緒する方々とお会いし、和やかな雰囲気ツアーが始まりました。

マニラ空港に到着、お迎えのジブニーに乗ってメトロオフィスへ。中を案内され、スタッフやボランティアのメンバーが住んでいる建物、また、たくさんの支援物資がプレゼントとして用意されているのを見せていただきました。私たちが月々サポートしている子ども達へは、家族に直接現金を手渡すのではなく、スタッフのきめ細やかな配慮、訪問、また、子どもに必要なものを手渡す、という支援に使われていることを知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

### ついに子どもとの面会！ 衝撃の現実

2日目、午前中いよいよポーリーンちゃんに会える、ドキドキ。毎回送られてくるポーリーンちゃんの写真を見ていると、身なりもきれいで栄養状態も良いような感じがしていたので、もう生活は改善しているのでは？という思いもあったのですが、住んでいる場所に行くと愕然としました。元スモークマウンテンのあった場所で、20年前に政府が建てた



というアパートの4階。狭い玄関から入ってすぐの部屋、ここがポーリーンちゃんの部屋？と思ったら、四畳ほどの部屋に所狭しと、叔父さん家族が4人で住んでいる、とのこと。中を覗くと男の人が昼間から横たわっていてギョッとしました。部屋のすぐ先に狭い台所とトイレ、すぐそばにある狭くて急な階段を案内され、上へ登ると、天井はかがんでやっと立てる狭い部屋が二つ、大きさはそれぞれ4畳ぐらいで、右側が女部屋で、お母さん、ポーリーンちゃん、お姉ちゃん、妹2人の部屋、左側が男部屋、こちら男の人が寝転がっていて、ハイ！とにこやかに挨拶をしてくれました。こんな狭いところに12人で住んでいて、生活費は同居しているおじいちゃんが自転車のトリスロンで稼いで家族を養っている、ということを知って衝撃でした…

お宅訪問後、ポーリーンちゃんと私たちを載せたバイクのトリスロンは街中を飛ばしてショッピングモールへ。ファーストフード店で、ポーリーンちゃん、お母さんと可愛い1歳の妹と食事。一緒に写真を撮ったり折り紙を折ったり、楽しいひとときでした。何でも買っていていいよ、というショッピングでは、大喜びでお母さんと2人、カートにたくさんの食料や雑貨を選んで入れていて、その姿を見てとても嬉しくなりました。最後に主人が、ポーリーンちゃん、家族の祝福を祈りました。お母さん、ポーリーンちゃんの肩に手を置いて祈った後、日本語でのお祈りでしたが、33歳のお母さんが泣いていました。16歳で最初の子どもを産み、ポーリーンちゃんは3人目、下の2人の妹はまた違うお父さんの子ども。2番目のお父さん、怠け者だったので追い出したとのこと…ポーリーンちゃんを取り巻く様々な状況も知ることができました。

—続きは次号に掲載します



スポンサーの方々からの支援を準備するスタッフ。クリスマス時期には毎日毎日大量のプレゼントを準備します

# ビル師からのメッセージ



## 時には天使も銃を持つ —2番目の奇跡

パレスチナ人のハン兄がちょうどメロの日曜学校開始の笛を吹こうとしているところでした。そこに座っていたのは、いつも通り日曜学校に聖書の話聞きに来たという人々で、これから起きることを誰も想像していませんでした。

子どもたちの父親が4人ほど、水と食料を見張るために後方に立っていました。そのうち数人は、武装もせず水や食料が盗まれないよう夜通し見張ってくれていたのです。

私はイスラエル軍の協力を得るために関係者に働きかけ、結果的に、日曜学校の開催地域周辺を10人程の兵士が警備してくれることになりました。でも、その担当者から私に何も返答がなかったため、実際に警備してもらえるかは分からず、ハン兄も彼のチームも、そのことを知りませんでした。

そして、まさにハン兄が日曜学校を始めようとしたその時、父親のひとりが、こちらに向かってやってくる6人のハマスの戦闘員に気づきました。武器を持たない父親たちが武装したハマスの戦闘員に太刀打ちできるはずがありません。もうどうすれよいかかわからないと思った、その時！10人のイスラエル軍兵士が、日曜学校の周りの爆破された建物の陰から疾風のごとく現れたのです。彼らは、ハマスの戦闘員が食料を奪うその瞬間まで待っていたのです。もし彼らがいなかったら、どうなっていたことか…

あっという間にイスラエル軍の兵士は4人のハマスの戦闘員を倒し、残りの2人は、元来た方向へ逃げ帰って行きました。

ある方々は、この奇跡を理解されると思いますが、そうでない方もいらっしゃることでしょう…。

日曜学校の後、ハン兄はイスラエル兵のひとりと話した時、兵士たちがライフルの銃身の先にサプレッサーを装着していることに気づきました。前線にいるほとんどの兵士は、この消音器の役割をするサプレッサーを使わないそうです。

ハン兄は、イスラエル軍のパトロール隊の隊長が遠くから手を振って親指を立てるのを見ました。そして、兵士たちは、素早く隠れていた場所に戻り、見張りを続けてくれました。彼らは適切な場所に、適切なタイミングで現れた天使だったのでしょか？ ご判断は皆さんにお任せするとしましょう。

ただこれだけは確かです。10人のユダヤ人兵士が、1000人の飢えた子どもたちに少しでも食料や水が与えられるよう、そして、最も重要なイエス様のお話を聞くことができるよう、尽力してくれたということです。日曜学校の邪魔をする全ての要因を排除するため、普通は使わないサプレッサーを銃身に装着する決断までしたのです。兵士である彼らは、彼らにしかできない方法で全ての妨げを取り除いたのです。彼らは護衛のためにそこに居り、確実にそれを実行しました。

ユダヤとパレスチナの対立の歴史を知っている方なら、それが旧約聖書にまでさかのぼることをご存じでしょう。ですから、私たちのチームが身をもって体験したことは、まさに奇跡だったとお分かりいただけたでしょう。

イスラエル軍兵士たちは、イエス様の復活の物語の大きな一部となりました。彼らはその日、そこにいた全ての者よりも大きな何かの一部となったのです。爆破された建物のあるその空き地は、本当に神の家が変わったのだと、兵士たちを含め日曜学校の全員が知ったのです。

奇跡について語りたいですか？ 私たちのチームは一日中目撃した奇跡について話すことができます。しかし、その必要はありません。イエス様は奇跡を起こされたのです！

イスラエル軍はイエス様の御名が崇められ、イエス様の物語が語られるようにと静かに、まるで何もなかったかのように、また護衛と監視のために姿を消しました。全ては、軍服を着た素晴らしい天使たちの助けによってなされたのです。

しかし、これはまだ最大の奇跡ではありません。

## 男の子は生き返り、686人が生まれ変わりました

私は、この3つ目の奇跡についてお話するのを心待ちにしていました。

ハン兄は、キリストの死と復活についてメッセージする時の小道具にしようと、先に亡くなったボランティアのお母さんの墓から十字架を借りてきたところでした。その十字架を頭上に掲げながら、日曜学校に集まっていた群衆の間を歩いて前まで歩いて行きました。ハン兄は皆の注意を引き、イエス様がカルバリへの道を歩まれ、私たちのために何をしてくださったのかを理解させようとしたのです。

その時です。突然、子どもを抱いた中年の女性が、アラビア語で叫びながら全速力でハン兄に向かって走ってくるではありませんか！「助けてください！助けて！あなたなら私を助けられると言われたのです！」

誰も何が起きているのか理解できません。また、ハマスの攻撃でしょうか？日曜学校に来ていた1000人全員の目が、集会の先頭まで走っていき、この女性に注がれました。

ハン兄はテーブルを用意し、手には十字架を持っていました。皆が注目する中、女性は男の子を目の前のテーブルに寝かせました。ハン兄は彼女の肩に手を置いて落ち着かせ、何かできることがあるかと尋ねました。すると、彼女は言ったの

です。「私の息子が死んでしまった。あなたならこの子を助けられると聞いたんです…」 群衆は一瞬で静まり返りました。

イースターの日曜日です。医者もいなければ薬もない、行ける病院など近くにありません。彼女はハン兄に、この8歳の息子が、飢死したと懸命に説明しました。彼女は息子のために食べ物を手に入れようとしたのですが、何も手に入れられないまま、ただ目の前で息子が死んでいくのを見ているしかなかったのです。あなたがたの中で、瀕死の自分の子どもを腕に抱いたことがある方はおられるでしょうか。私にはその経験があります。もし経験したことがあるなら、それが決して忘れることなどできないものだとは知っているはずですよ。

ハン兄は「息子さんが死んでからどれくらい経ちますか？」と尋ねました。「少なくとも15分。」母親は答えました。

このような状況で信仰が試されたことのある人がどれだけいるでしょうか。全ての目が、今あなたに注がれています。これからイエス様の復活について説教しようとしていた、そんな矢先、こんな緊迫した状況の中に身を置いているとします。私は皆さん全員にお尋ねします。あなたならどうしますか？

私はハン兄をとっても誇りに思います。今週、何度彼にそう伝えたいでしょう！ 彼が、集まっていた大勢の子どもや親たちに目をやると、彼らは皆、ただ、こちらを見ていました。拡声器も使わず、ハン兄はありったけの声で叫びました。「今日はイースターです。イエス様が私たちのために死んでくださったことを、私たちは知っています。彼の打ち傷によって私たちは癒されるのです。私たちは奇跡を信じています。だから…」

彼はさらに声を張り上げて言いました。「皆さんの手を、この死んだ男の子に差し伸べてください。祈るのです。私と一緒に祈り、イエス様が奇跡を起こすことができると信じてほしいのです。」子どもたちも親たちも皆、手を伸ばしました。

ハン兄は死んだ少年の胸に右手を当てました。「イエス様、あなたは十字架にかけられましたが、父なる神があなたを死者の中からよみがえらせてくださいました。そして今、私はあなたをお願いします。あなたの名、イエスの御名によって、この小さな男の子に触れてください。」男の子が死んでから15分以上経っています。静寂がその場を包んでいました。人々の手は、男の子に向かって差し伸ばされたままです。

もし、あなたがハン兄だったらどうしていたでしょうか？

突然、この小さな男の子の目が開いたのです。ハン兄は彼を見ましたが、焦って何かを言うより黙っていました。すると、少年が咳き込み、ハン兄が左手を少年の背中に置いて彼を座らせると、なんと男の子は立ち上がったのです！

ハン兄は人々に向かって叫びました。「あなたがたは今、この小さな男の子が活着しているのがわかりますね。これが、私たちが今日ここにいる理由です。神様が御子を死からよみがえらせたように、イエス様が、この子を死からよみがえらせてくださったのです。これこそ、私たちが自分の人生をイエス様に捧げる時、イエス様が私たちにしてくださることなのです！」

拍手と叫び声が湧き上がりました！ 警護で隠れていたイスラエル国防軍兵士の数人も、何ごとかと出て来ました。

ハン兄は御霊に感じ、今こそ絶好のタイミングだと直感して、「イエス様に人生を捧げたいと思う人がいたら、3つ数えたら手を挙げてください。イエス様があなたを赦し、クリスチャンになれるよう祈って導きます。」と3回繰り返しました。自分の言うことを、全員にしっかり理解してほしかったのです。

何が起こるのか、誰か立ち上がるのか、彼にはわかりませんでした。しかし、彼はその場に聖霊がおられると知っていました。後ろにいた父親たちが数えると、合計686人の子どもと親たちが手を挙げ、立ち上がり、罪の赦しを祈り、キリストに人生を捧げていました！ 彼らは、ただイースターの話聞いたのではありません。まさにそれを体験したのです！

それからハン兄は、人々の中に入って手を置いて祈り、また祈りへと導きました。母親たちはひざまずいて泣いていました。何が起きたのか正確にはわかりませんでした。自分たちが目の当たりにしたことだけはよく分かっていました。彼女たちは、その目で神の力を見たのです。ハン兄の導きが終わるまで、45分ほどかかりました。彼はしきりに感謝する母親とあらためて話し、死からよみがえったばかりの小さな男の子のために祈り、食べ物と水がもらえるよう取り計らいました。

人々が解散し始めると、警備していたイスラエル国防軍の兵士の一人がハン兄に近づいてきて言いました。「ありがとうございます！ あなたが、自国の人々を愛していることを知っています。私も私の国の人々を愛しています。でも、今日は本当に特別な日でした。立ち上がって祈るよことあなたが言った時、あなたには見えなかったでしょうが、私は立ち上がりました。天に向かって手を掲げ、イエス様が私の心に入ってくださるよう祈りました。」



そして兵士は、自分のペンダントを外し、ハン兄の首にかけました。そこにはヘブライ語で「今こそ人質を連れ戻せ」と書かれています。兵士は言いました。「あなたはイエス様を信じています。今、私もイエス様を信じています。我々の愛する者たちを一つにしましょう。」ハン兄は答えました。「はい、やりましょう。イエスの御名において。」

ハン兄は、奇跡を通して戦争の只中で絆を築いた彼との思い出として、そのペンダントを身に着けています。彼らは全く違う背景を持っているにもかかわらず、ほんのわずかな時間であっても、神の臨在を共に感じたのです。その日は、いつもと全く違うイースターの日曜日でした。奇跡を信じた人がいたからこそ、686人もの人々が新たに生まれ変わりました。今、皆さんの中にも同様の方がおられることを願います。

神よ、あなたの道は聖なるものです。あなたのようにすぐれた神があるでしょうか。あなたは奇跡を行われる神。諸国の民の中に御力を示されました。詩編 77:13-14

今回は、もう一つ奇跡の話をお伝えします。

ビル・ウィルソン

外口へのご支援は、こちらからお申し込みいただけます。 <https://metroworldchild.jp/offering/>



# 日本事務所からの重要なお知らせとお願い

## ビル師来日決定！

ビル師は順調に回復し、7月下旬の来日が決まりました。本年3月の来日が叶いませんでしたので、今回はぜひ皆様と直接お目にかかって、ご支援のお礼を申し上げたいと希望しています。

ご案内は6月になるかもしれませんが、ぜひご出席ください。

日程は、7月25日～30日の間で、関東方面とその他の地域を検討しています。

お招きくださる教会がございましたら、お知らせください。ご連絡先はページの下にあります。

ビル先生の旅費や会場費のこともありますので、300名～500名は集めてセミナーを開催したいと願っています。

## 現在開催中のキャンペーン！

先月もお知らせしましたが、年間を通して様々な企画を行いますので、毎月のレポートを必ずご確認のうえ、ご支援の参考にしてください。

現在行っているキャンペーンは、以下の通りです。

5月：アメリカキャンプ支援(5月25日締切)  
フィリピンキャンプ支援(5月25日締切)

また、ご支援いただいています子どもの誕生日の前月には、お知らせの手紙を同封しますので、必ず開封して中をご確認ください。ご自身の状況に合わせてプレゼントをお考えいただければ幸いです。ネットや電話などでお申込みいただければ翌月のお引き落としに加算することもできます。



## ！ 違いを生み出す月曜日！

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。新規スポンサーを常時募集していますので、よろしくお願いたします。コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、ケニアでは、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。現地を訪問した若いスタッフは、その悲惨さを目撃して、「違いを生み出す月曜日」のキャンペーンを立案。一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと努力しています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介&申込サイト⇒

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



## 日本事務所よりごあいさつ！

気持ちの良い季節を迎えました。皆さんお元気で連休も満喫されましたでしょうか。

レポートでご案内しましたように、7月のビル師の来日とセミナー開催が決まりました。詳細はこれから調整しますので、300名以上の動員をして大きな会場をご準備いただける方がいらっしゃいましたら、すぐにお申し出ください。

セミナーの中で、ビル先生から直接ウクライナやガザ地区のことを聞くことができますし、急拡大している世界各地のメトロの働きについてもご報告させていただきます。また、フィリピンスタッフも来日しますのでご期待ください。

ちょうど夏休み中ですので、大人の方だけでなく、学生たちにも数多くご参加いただけると期待しています。

皆様の上に、主からの豊かな祝福と恵みが注がれますようにお祈り申し上げます。

日本所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



# メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-6

橋ビルII 7階 TFC内

電話 03-6264-7370 (松山事務所 089-992-9020)

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン